

令和 7 年第 9 回真庭市教育委員会会議録

会 議 種 類	定例会	
開 催 年 月 日	令和 7 年 8 月 2 1 日（木）	
開会及び閉会 時 刻	開会時刻	9 : 3 0
	閉会時刻	1 0 : 2 2
場 所	真庭市役所教育委員室	
会議録署名者	教 育 長 三ツ 宗宏	
	署名委員 高谷 絵里香	
会議録作成者	教育総務課 係長 矢萩 志保	

1 出席委員

職 名	氏 名	備 考
教 育 長	三 ツ 宗 宏	
教育長職務代理者	常 本 直 史	
委 員	徳 山 周 一	
委 員	高 谷 絵里香	
委 員	和 田 ひろみ	

2 出席した者

職 名	氏 名	備 考
教 育 総 務 課 長	中 川 晃 吉	
学校給食推進室長	三 浦 宮 子	
学 校 教 育 課 長	田 中 裕 恵	
生涯学習課課長	福 井 学	
図 書 館 振 興 室 長	佐 藤 弘 敏	
教育総務課主幹	江 川 泰 光	

3 傍聴人

0 名

4 議事日程

日程	案 件	結 果
	開 会	
第 1	教育長あいさつ	三ツ教育長
第 2	署名委員の指名について	高谷委員
第 3	教育長諸報告	三ツ教育長
第 4	付議事件	
	議案第 18 号 令和 6 年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について	原案可決
第 5	その他	
第 6	閉 会	

5 議事の概要

(9時30分 開会)

○三ツ教育長

これから第9回教育委員会を開催いたします。以下、議事日程に従って進めてまいります。日程第一、教育長挨拶です。

暑い日が続いていますし、10月頃まで暑い、秋が短いという予報があります。昨日も東北北部で豪雨がありましたが、災害も非常に気になるところです。そうした中、学校はこれから二学期が始まっていきますので、先日の校長会や教頭会でも、子どもたちの安心と安全の確保ということについてお願いをしているところであります。完全に予想しきることはできないですが、それでもできる注意を払いながら、地域や家庭とも協力しながら、子どもたちの安全を担保していきたいと思っていますところであります。

一つ、お話しをさせていただきます。以前もお話ししましたが、合併時を基準にした子どもの出生数です。見ていただいたらわかるように、地域ごとに大きな格差がありますが、真庭市全体でいうと、合併時からいっても57%ぐらい、出生数が減ってきている状況です。基準値がまちまちなので、地域ごとに差があるということもありますが見てください。

今日は、「これさて困ったな」という話をしようと思っているのではありません。少子化とか人口減少ということがよく言われますが、国際的に見ても、移民や移住でいくらかの回復することもあります。少子化にとって、一時的な回復はしても克服した国はないですね。対処対応に追われるのが本当によいものかどうかということ最近よく思います。「何とかしよう」ということで頑張るのも、もちろん大事なわけけれども、一方では、言葉は悪いのですが、適切に諦めて、人が少ない、あるいは少子化であるということを楽しむという視点が大事なのではないかと感じています。単純に考えて、人が減っていくということは、一人一人の活動量が増えていくし、いろいろな人がつながるチャンスは生まれるし、決してマイナスだけではない。それを生かして、将来どん

な楽しみ、どんな豊かな地域を作っていくのか、どんな学びを作っていくのかという視点を大事にしていかないと、結局「少子化は悪だ、人口減少は悪だ」と、閉塞感ばかり強まって、本当に大事なことに注力できないのではないかと、いうことを強く感じています。

そうした中で、学校とは何なんだろう。もちろん教育の機関ではあるのですが、とりわけ中山間地域では、地域の生態系の一部なのだと感じます。同時に、人たちがつながったり行き来するハブである。そういうことをどう作っていくのか。そこで人が交わることで、やりたいことが生まれて楽しめる関係性をどう作っていくのか、ある意味、日本中で進んでいる人口減少、少子化の中で、地域と手をつないだり、励ましたりする力になるのではないかと、思っています。真庭市で本当に地域の隅々まで行き届いている公共材というのは学校であるし、自治体規模からいったら図書館です。そういうところがうまく繋がって、一つのハブになっていくということが大事だと思っているところです。学校も図書館も、人が集まって寄り合って、いろんな活動を生み出す場所にしていこうと取り組みを進めています。答えがあるわけではないですし、地域ごとに状況が違いますから、一概には言えませんが、そうしたことを、視点として大事にしながら、少子化や人口減少を楽しむんだということを、考えていきたいということを最近強く感じているところであります。

今日は点検評価についても、ご審議いただけたと思います。そうした目を持って見ていただけたとありがたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、日程第二です。署名委員の指名についてですが、今日は高谷委員さんお願いします。

○高谷委員

はい。

○三ツ教育長

よろしくお願いします。続いて、日程第三 教育長諸報告を教育次長欠席のため私よりさせていただきます。

報告 1 市議会関係：文教厚生常任委員会（8/20）

報告 2 市教育委員会関係：

① 2 学期始業式 8/25 ～9/1

② 運動会 9/4～10/4

③ 教職員について（交通事故）

報告 3 その他：教育委員会会議日程及び教育委員会行事

（資料により説明）

以上、報告させていただきましたが、委員の皆さんからご質問ご意見ありますでしょうか。

よろしいですか。では、ないようですので、続いて、日程第四 付議事件にうつります。

議案第 18 号令和 6 年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書（案）についてお願いします。

○中川教育総務課長

議案第 18 号令和 6 年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書（案）

提案理由：地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条第 1 項の規定に基づく「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する報告書」について、教育委員会の議決を求めるものである。

（資料により説明）

○三ツ教育長

説明がありました。委員の皆さんからご質問、ご意見ありますでしょうか？

○高谷委員

法律に基づいてということで、このように、点検と報告をまとめていただいで本当にありがとうございます。

結構、労力もかかることだと思いますし、拝見していて、細かいものを点検していくというのが、そのメリットと労力と、どちらの方がいいのかという、そもそもの話なんですけども感じながら読みました。しかし、生かせるものは生かしていきたいと思うので、点検のための点検に終わらずに現場に関わってくださっている、地域の方とか先生方と共有して、「こういうところがまだ足りなかったかな」とか、「こういうところはうまくいってるね」ということをみんなで共有していくという目的の方がよいなと感じました。KPI よりも、元々の理念というか、3つ掲げている三本柱に立ち返るという方が大事だと思いましたので、そのあたりもみんなで共有していけたらと感じました。以上です。

○中川教育総務課長

ありがとうございます。今回 46 事業を 26 事業とまとめて評価をさせていただきました。確かにと言われる通り、労力もかかる作業ですが、職員が事務をする中で、やはり振り返りはとても大切であるとも思っていますし、自己で評価するということも大切だと思っています。また、それを共有することとても大切だと思っています。中には KPI で測りきれないものはたくさん、特に教育分野では数字で表せないということが多々あると思っています。なかなか強制的に、数字で表してしまうところもあったりしますが、今後、経年で見えていくという意味でも、そこら辺りは大切かなと思っていますので、そういうところも含め、KPI の指標がどのような方がよいのかということも考えていきたいと思っています。また、来年度は次の計画を立てるということになりますので、今後の、5 年先、もっと先も含めて、いろいろ考えていきたいと思っています。有識者の 2 人の方からも大変素晴らしい意見をいただいていますので、参考にしながら今後頑張っていきたいと思っています。ありがとうございます。

○和田委員

高井委員がおっしゃられた通り、この細かい資料作り、そして点検の作業をしていただくということ、本当にありがたいと思っております。お2人の有識者の先生からいただいた意見も素晴らしいなと拝見しました。先ほど教育長の冒頭の挨拶に、「少子化を受け入れて、悲観しないで楽しんでいく」とありましたが、本当にそうだと思います。この考え方へのシフトチェンジが、真庭市の皆さん、教育に携わる方もそうですけれども、なかなか一斉にはできないと思うのですが、そのように受け入れることができると、また考え方もいろいろ変わってくるのかな、この内容も変わってくるのかなと感じました。未来を明るく感じないといけないなと、私も気持ちを入れ替えたいと思う一方で、統合ですとか、小規模学校を維持していくために、いろいろなインフラ的なことを、そこに通う子どもたち、そして学校を拠点としたコミュニティの集まりとなった時に、山間部の場所に住んでる私たちとしては、足がとても悩まされるところがありまして、重要と感じていますが、その点について、なかなか触れられないところもあったりするのかなと思っております。私自身のことを言って申し訳ないんですけれども、子どもが学校へ通うのに指定学校でないと、登校時のバス等での送迎ができないと規定があったので、その指定学区をかえるところから、教育委員会の方々にお世話になりました。それは結構大変な作業だったので、また今後、いろいろな方々がそういうことを目の前にしていけないと、そこを乗り越えていけないのかなとか。また、大人の方も、生涯教育として拠点にしていく時に、その足のことまで考えず議論していても、空想で終わってしまわないかと。どのようにしたら、その学びの場までに辿り着く方法が得られるかを確実にしないと、こうしたいんだと思っても、そこにいきつけられない現実があるところが実際あります。そういったところも見ていただきたい、評価の中に入れ込んでいただきたいなと思っております。以上です。

○中川教育総務課長

ありがとうございます。子どもが少なくなるということは、もう今後どんどん進んでいくことでありますし、間違いなく足の担保は大切なことだろうと思

います。学区を超えての通学の方については、自分で確保していただくということになっていきますので、その辺も大変な部分はあるんですが、今のところは、ご理解いただけたらと思っております。少子化になって、小さい学校というのがこれから増えていくこともありますし、さまざまな学びの担保は大変重要だとは思っていますので、それも含めて、評価にどこまで入れられるかというのは、また今後、来年度にむけて考えていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

○三ツ教育長

今の話は通学支援に関わらず、社会インフラとして何を大事にしていくのかということですね。この広域分散の真庭市で、しかも、真庭市は分散居住をやっているように思えますよね。いわゆる、どこかに人口集積を図ろうという方向ではない。その中で、どういった社会インフラを大事にしていくのか、何が必要なのかということは、和田委員がおっしゃったように、学びへのアクセスもそうだし、医療へのアクセスもそうだし、買い物も含めてそうなんだけど、本当に大事なことであって、全庁を挙げて考えていかなければいけないことだろうと思っています。同時に、行政サービスがどこまでやれるのかということも含めて、大きい問題だということを思いながらお話を聞かせていただきました。ありがとうございます。

○徳山委員

私も和田委員さんがさきほど言われた交通手段のことで、両親が共働きで、帰宅場所がおじいちゃんおばあちゃんのところになるが、それが定期的というわけではない人も出てきているように思います。その足の不便さがあるがゆえに、そこに住めないという方も、私は聞いたことがあります。しかし、一定のルールがないと困ることになるので、そこら辺りはバス等の利用の仕方のルールを見直しをしていただいてもいいのかなという気がしました。また、高井委員さんが言われた「評価も負担になる」ということは、私も同感です。評価が

出てきたのが私が現役の最後の頃だったのですが、学校評価で報告もぐっと出てきました。そこで中和出身の大阪で教育次長をされた方にどうしたものでしょうかねと言ったら、「もう気にするな」と言われたことがあって、すごく気が楽になった覚えがあります。今はもう慣れてきたころとは思いますが、それでもまだ本当に意味ある評価になっているかどうかは、ということは思いました。

大塚さんと金田さんの意見を読ませていただいて、大塚さんの鋭いご指摘、切り口になるほどなと思い、それから金田さんが、優しい表現で書いてくださってよく見ていただいていると、お2人ともよい評価をしていただきながら提言をしてくださってると思いました。

大塚さんの評価の中に、「不登校を KPI で数値化することが本当にいいのかどうか」とあったと思います。数値化して目に見える形にしないといけないということでこうなったと思うのですが、大塚さんの書かれていた「城北塾等に通う児童の生活の満足度」や「保護者の不安感の軽減ができてるかどうか」というところを見ていくことができれば、それも良いと私も思いました。

また、ICT の活用について、「毎日使ってる割合を調べることに意味があるのか？」みたいな、厳しいご指摘だったと思います。私が教えていた頃は、パソコンを子どもに教えるのは、パソコン教室に連れて行って、靴をきちんと並べるようにして、電源の入れ方を教え、それからマウスの使い方を教え、それから電源の切り方を教えるという、本当に今では考えられないようなことをしていたのですが、今は学校に尋ねると、子どもたちが自分でどんどんどんどん使っているという。それだけよく伸びて、できてきているのだと思います。だから、次の段階に進むこともよいのかと思いました。指標は難しいかもしれませんが、「ICT 活用で学びがどう深まったか」とかというような、活用する技術はもちろん必要ですが、「深まりがどうだったのか」を調べられる指標が、難しいと思いますが、あればよいと思いました。また、使うのはよいのだが、SNS 等、ネット社会の問題も多いので、そこに対して、学校としてどう捉え、どう情報の悪い面も考え、その対応も考えていかなければならないと私も思いました。

生成 AI の活用も、どのようにこれから学校の中に取り入れるのか、私はもうなくてはならないものになってきつつあるとチャット GPT 等を使いながら思っています。

3 つめですが、QU 検査について、学級経営や集団づくりに効果があるということで、ただ、学校全体でこれをどのように使って研修していくかということが大事なんじゃないかと、私も思いました。以上です。

○田中学校教育課長

ありがとうございます。大塚さんが指摘されている教育相談のことなんですが、面で捉えるということもいるのかな、というのが点検評価になるのかなと。1 人 1 人を掘り下げるとするのは、日々の中で教育支援センターも学校と協力しながら、学校復帰というところを目指しているので、丁寧に 1 人ずつの見取りというような形ではいつているのですが、全体を面で捉えていくというのが何が指標がいいのかというのは難しい。主観になっても、なかなか評価という形にはならないのかなというところで、何をするのがよいのかということを経験後考えていかないといけないと、読ませていただいて、また、今おっしゃっていただいたことも含めて思っています。

ICT に関しては、確かに令和 4 年の時点では、「毎日使う」ということが課題であったと思いますが、もう完全にフェイズは変わっていて、そのあたりは文房具化している状況にもなってます。実際、次回の教育委員会で、説明させていただく全国学力学習状況調査等のその質問調査の詳細を見ても、ICT 自体を主体的で対話的で深い学びの方で使っていることがほとんどで、子どもたちの回答を見ても、自分の入力等のスキルについてもかなり自信を持って答えている子も多いし、「それを使ってパワーポイント等で発表している」とか、「対話をしている」みたいな、そういう評価もすごく高いので、5 年を 1 つのスパンにしている評価なんですが、一旦真庭市としては終わって、新しい評価へ向かうものに当てはまるのかと考えています。そのあたり、点検評価自体の問題でもあるというところではありますが、学校の方にも、くるくる小さいスパンで

回してくださいと言っているので、5年行ってしまうと、多分、もう完全に新しくなってしまうというものも、どんどん出てくるというのが最近なのかなと感じております。ICTに関してはかなり取り組み進んだというのが実感でして、この令和4～6年の間に、学校の進め方は先進的と言わせてもらってもよいのではないかと状況にはなっています。今回、テストがCBTで受けたものについても、理科がCBTで得点がすごく高く出たのですが、指導主事はその端末の使い方が、真庭の子どもたちは板についている状況になってきているのが関係していたのかという評価もしたぐらいでした。

SNSに関して、今、真庭警察署と連携をしているので、各校を回っていただいて、子どもたちに実際おきているトラブル等を具体的に伝えていただきながら、どういう問題に、その関わりによって、自分がどういう罪になるのか、罰を受けるようなことになるのかも含めて話をしてくださっていますが、アンダーグラウンドにもぐり込むようなものなので、なかなか表出させるというのは難しいという問題ではありますが、取り組んでいくしかないと思っています。生成AIについても同じ状況だと思うのですが、まだ、入れていません。この2学期から教職員にGoogle Geminiを入れるということをはじめました。Geminiを使って、教職員が、どういうリスクがあるのかというところや、どういう使い方がいいのかとかいうことも含めて考えていきたいと思っていますところですよ。

QU検査については、QU検査の研修を中国心理診断センターの方でずっとやっていただいていたのが、だいぶ指導主事の方にその依頼が来るような形になっているので、そのQUの研修についても、少しフェーズも変わっている部分もあるのかというところで、考えていかないといけないと思っていますところですよ。以上です。

○常本委員

もう皆さんがおっしゃられるとおりなんですけど、私は津山市に住んでいて、交通手段が、これはこれからどんどん必要になってくるのではないかと思います。高齢者が動くのにも、「ずっとバスに乗ったら病院に行ける」、「いくら離れ

ていても、乗ったらスッと行ける」そういう足を作るのが、これから人口減少になってくると必要になってくるのではと思います。津山市長に「津山から岡山に出るその足について、車ではなく、交通機関で 30 分で行けるようにならないのか。」と言ったことがあるのですが、大阪・神戸・京都、東京でも周辺に住んで 30 分で東京に行けるとか、1 時間寝たら相当、八王子の奥まで行けるといふ、そのような感覚がこっちの方にも少しでもあったら、人口分散するのではないかと思います。地域を考えていくのは、その中に学校が存在している。学校がなくなっていくと、遠くに通っていかなければならないので、足は大事になってくるとすごく思っています。

徳山委員も言われましたけど、目標設定することは、学校現場において大事なことだと私は思ってます。プロジェクトでも何でも 1 つみんながそれに取り組んで、その目標が達成できたかどうか。学校の中には課題がたくさんあるんですけども、全部しようとしたらもう息苦しくなるので、1 番何をしたらよいか考えて、「不登校のことをみんなでやってみよう」とか、「学力を向上させるためにはどうしたらいいか。」何でもよいので 1 つやって、それをみんなでやる。目標設定して、やっていくことで実践する。そしてどうだったかという評価。このことで先生方に力がついていくのではないかな。例えば、学力で目標を立てたんだったら、「こういう勉強の仕方をさせたら、子どもたちが力ついた」という自信につながってくる。そういう時間がかかるけど、1 つ 1 つやっていくことが大事だと思います。そういう意味の KPI であり、目標設定ということが大事だと。子どもが少なくなってくると、さっきも教育長の話にもあった、1 人 1 人の活動量も増えるし、1 人 1 人の力を求められると思うんですよ。学力状況調査で平均が出ますけど、そうではなくて、真庭は個を見ていこうとなってますので、個がどうなのか、教員の力がついていってるのか。中高で先生方の指導力というのは、問題作成で力をつけていっていると思うんです。だから授業した後、確かめるためにテストをするんですけど、その問題によって力がどうついていくかということを、先輩の先生に教わったことがあります。「先生の授業ってあんまり変わらないと思うんだけど、何が違うのかな？」という見方

で見ると、問題作成能力はすごくついてくる。そうすると、高校ではいろんな模試をするのですが、やっぱりベテランの先生はすごくその辺のところで結果を出していくんです。だから、先生方がいろいろな情報が入りすぎて、もうアップアップになっているかどうか分かりませんが、何か1つ目標を立てて個の力をつけていくこと。教師力というものを、もう1度見ていくのも大事なかなと思います。

いろいろな子どもたちの評価のことが出ますが、それは子どもたちを1人1人しっかりみんなで見ましょうというのが根底にあるわけなので、結果がどうこうではなくて、しっかりみんなでみましようということ。部活動の地域移行だって、地域の人に見てもらって、みんなで子どもを育てようというところを、忘れずにやっていく必要がある。そういう意味で評価が毎年行なわれているんだろうと思います。どんな力をつけるかで、学校で言えばみんなで共有すること。これもできれば1つです。私が現場で行ったのは、考えて行動するという力をみんなでつけよう。そのためには、「自分の授業ではこうする」とか、「学校行事はこうする」とか、みんなでそういうことをやっていくようになっていけば、元気な子どもが、「なんで?」「分かった」「面白い」とかいう、すごくプラス思考の子どもができていくんじゃないかなと思っています。だから、いろいろな方に意見も聞きながら、現状をもう1回チェックして、教育委員会のメンバーとかだと、どうしてもこれを綺麗に作るのにエネルギーを使ったりするんだけど、それが目的ではないわけなので、現状把握、学校現場に行く、先生方と話をすることをやっぱり繰り返していったら、現状をチェックして、これでいこうという項目ができれば、教育委員会自体は全体像が頭に入った上で、よりシンプルにイケたらいいかなと。その辺りは教育委員会が練るところなのではないかと思いました。読んでいて感じたことです。

○三ツ教育長

ありがとうございます。事務局から何かありますか？委員の皆さんも他にあればお願いします。

思うことはいろいろあるのですが、法に定められているということが一つですよね。数値目標というのはあくまでも目標であって、目的ではありません。要するに目標というのは、このゲートを通っていけば、この目的に到達しますよっていうゲートの部分ですから、その目標の適格性ってというのは時代が動いているので、やっぱり5年間というスパンでは、今は長すぎるなというのは現実問題としてあります。そう言いながら、やっぱり数字的に見ていかなければいけないものもあるし、税を突っ込んでやっているわけなんで、説明もしなければいけないし、その部分はやっぱり真摯に受け止めながらやっていかなければいけない。ただ、あんまりやりすぎると、目標が目的化してしまうので、この怖さもありますし、難しいなと正直思っています。元根本で言えば、あんまり学校評価とか、こういう評価が前に前に出るということは、「行政とか学校がサービスの提供者ですよ」「子どもや保護者、地域の方がサービスの享受者ですよ」という二律背反の関係を作ってしまう。本来、一緒に作っていかなければいけないものなんだ、そういう問題も一方では含んでいるのではないかな。制度のことを言ってもしょうがないんが、思っています。同時に、最初の話に戻るのですが、これには多分表現しきれないと思うんだけど、利便性、効率、こういうものも大事だが、その手間を楽しむとか、その豊かさを感じるとか、非効率の中に、でも、そこを尊重するということをしていかないと。とりわけ中山間地域は、楽しみが生まれてこないんじゃないか。違う価値観をみんなでこう考えていく部分も一方では必要なんだろうと思いつながら、この評価を自分たちで出しながら、思っているところです。

皆さんからご意見いただきましたが、よろしいでしょうか。それでは、特段修正ということではなくて、今後に生かさせていただくということでよろしいですか。ではお諮りをいたします。議案第18号 令和6年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価についてご異議ございませんか。

○全員

はい。

○三ツ教育長

異議なしということで、原案可決ということでお願いします。

では続いて日程第五です。その他ですが、委員の皆さんから何かありますか？
よろしいですか。それでは、事務局から何かありますか？

○中川総務振興課長

・第11回教育委員会 10月22日（水）9：30～ 湯原社地区にて

○三ツ教育長

よろしいでしょうか。それでは、以上で教育委員会会議を終了いたします。

（10時22分 閉会）